

保育現場における図鑑・科学絵本の活用実態に関する研究

仲本 美央

研究実績の概要

本研究では、保育現場における図鑑・科学絵本の活用実態に関する質問紙調査ならびにインタビュー調査を行い、保育者が子どもの科学的思考性を生み出す経験をどのように捉え、計画・実践し、子どもの成長・発達を支えているのかを把握することで図鑑・科学絵本の効果的な活用方法を明らかにすることを目的としている。

3年間の研究計画のうち、2年目となる2021年度はコロナの影響に伴い、保育現場が日常生活に戻りつつある頃までインタビュー調査実施スタートを控えた。このことにより、大幅な遅れがあった。しかしながら、初秋頃よりインタビュー調査にご同意いただいた保育現場へ問い合わせをし、各地域の感染状況を把握した上で協力依頼を行い、2021年11月から同意を得られた園より順次インタビュー調査を実施した。その結果、5園の調査が終了し、その結果から以下の点が明らかになった。まず、第一に、図鑑・科学絵本を日常の保育で活用している保育現場においては、子どもが自由に手に取れる場所に設置し、興味・関心に応じて読みたいまたは調べたい意欲を掻き立てるような環境設定をしていた。第二に、保育室内で図鑑・科学絵本を活用するだけでなく、園庭に設置もしくは園外に持参して活用など常に子ども自らが主体的に見る・読む・調べるなどができる方法に取り組んでいた。第三に、子どもだけでなく、保育者も保育計画を実施する上で活用していた。第四に、図鑑・科学絵本は知識を習得するためだけでなく、実際の体験・経験へとつなげる保育を実践するための一つのツールとして活用していた。第五に、それら一連の図鑑・科学絵本を活用した保育実践から、子ども自らが興味・関心

を深め、さまざまな日常の保育における活動へと発展させていた。この大きく5つの共通点があることが明らかとなった。また、共通点に限らず、さまざまな保育現場での独自の活用方法があることも明らかになった。

さらに、2021年度に全国1022ヶ所の保育現場に実施した保育現場における図鑑・科学絵本の活用実態に関する質問紙調査に関しては、SPSS Ver28による統計分析を行った結果、以下のことが明らかになった。保育現場では図鑑・科学絵本を蔵書し、保育実践にて活用しているが、施設種別や規模によって図鑑・科学絵本の蔵書やその種類に格差があることが示された。なかでも、幼稚園では図鑑・科学絵本共に蔵書数は多く、かつ多様な種類のものを蔵書する傾向にあった。また、幼稚園では図鑑・科学絵本の設置場所においては各クラスだけでなく、図書室などの絵本コーナーに設置する傾向があった。

図鑑・科学絵本の活用者については、子どもと保育者だけではなく、保護者もその対象となっている保育現場があり、その園数は50ヶ所と少ないものではなかった。図鑑・科学絵本の設置については子どもの年齢発達が高くなるにつれて、保育室に配置する傾向があった。図鑑と科学絵本では、図鑑の活用頻度の方が高い傾向にあり、特に子どもにおいては、毎日、2～3日に一回、1週間に一回など日常生活において頻繁に活用している姿があり、必要不可欠な児童文化財の一つであると考えられる。約7割程度の保育現場では、保育実践において図鑑・科学絵本を活用し、子どもの科学的思考性を生み出す経験を保障していた。

以上、これまでの研究による調査結果から、保育現場における図鑑・科学絵本の活用実態に関し

ては、保育現場において蔵書数やその活用頻度の
みならず、その活用方法においても保育現場の認
識や施設形態によって大きな違いがあることが予
想される。3年目となる2022年度においては、さ
らに保育現場でのインタビュー調査を継続し、子
どもの成長・発達を支える上でのよりよい活用方
法や保育実践の在り方について検討していきたい
と考えている。